

すのうどろっぷ(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 20 年 8 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	1870100896
法人名	有限会社 すのうどろっぷ
事業所名	すのうどろっぷ
所在地	福井市和田東1丁目2218 (電話) 0776-21-1576

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成20年7月25日	評価確定日	平成20年8月28日

【情報提供票より】 ( 20 年 7 月 15 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人、非常勤 6 人、常勤換算 14.5 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000~58,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,100 円	

(4)利用者の概要 ( 7 月 15 日 現在)

利用者数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	5	要介護2	8
要介護3	1	要介護4	2
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 84.5 歳	最低 73 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	本定医院、ささじま歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは福井市の東部、かつてからの農業地帯でありながら、近年国道沿いを中心に開発が進んでいる地域に立地している。元々農村部であるため住民同士のつながりもあり、自治会等の活動も盛んである。ホームの建物は鉄骨2階建てで、2ユニットあり、居宅介護支援事業所も併設されている。運営者は“入居者の環境をなるべく変えたくない”という強い思いを持ち、開設から6年を経て、入居者も徐々に重度化し、車いすや食事介助等を必要とする方も増えてきている中で、運営者をはじめ職員が一丸となり、認知症ケアに関する知識と身体介護技術を高めながら、日々入居者本位のケアを提供している。また、家族の面会が多いことも特徴であり、入居者と家族の関係が希薄にならないように支援していることがうかがえる。地域住民との関係も年々深まっており、昨年から運営者が地域住民と一緒に進めてきた福井市のモデル事業である「よろず茶屋」(地域の高齢者の集う場所)の立上げも今年1月に実現し、開設以来積み重ねてきた努力がさまざまな形で実を結んできているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で課題として挙げられた市町村との連携については、市のモデル事業である「よろず茶屋」の立上げを契機に、運営推進会議にも市の職員が参加するなど、連携が密になってきていることが確認できた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット2名の職員が中心となり、他の職員にも確認しながら自己評価を行っている。自己評価及び外部評価の結果はカンファレンスで伝えるとともに、全職員に配付もして、改善への取り組みに向けて活用している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は、2か月に1回、地域包括支援センターや地区社会福祉協議会職員、民生委員等が参加して行っている。運営者は、まず、地域の方に認知症を理解してもらい、外部との交流の機会を増やすことを念頭において、これまではあえて入居者や家族をメンバーに加えていなかったが、今後は家族会を設立し、代表者に参加してもらいたいと考えている。運営推進会議は、当事者としての意見を伝えたり、それらを協議に活かす機会でもあるため、入居者や家族の参加が早期に実現することを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	各家族とは面会時のほか、年に1回ずつ面談する機会を設け、要望等もサービスの向上に反映させている。しかし、家族が一堂に会して意見を交わす機会がないため、家族会の設立も検討している。今後、家族会の設立を通じて、家族側もホームの運営に積極的に関わってくれるような意識変容につなげる取り組みが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設時から積み重ねてきた地域への働きかけより、地区の運動会や敬老会、小学校の行事への参加等、地域の方が入居者を同じ住民として受け入れ、交流する機会が多く持たれている。また、運営者が地域住民と一緒に立ち上げた「よろず茶屋」(地域の高齢者の集う場所)も徐々に開催回数を増やしてきており、今後、一層の地域住民との連携が期待される。

## 2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>理念に基づく運営 1 理念の共有</b>			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自に理念を掲げており、その内容から入居者一人ひとりと関わりを重視する強い思いが感じとれる。また、パンフレットに記載された「すのうどろっぶの想い」からは、地域との関わりや連携を果たすことを目的としていることが読み取れる。		地域密着型サービスに位置づけられたことも踏まえ、ホームは積極的に地域との関わりを実践しているため、さらに理念上においてもその考えを明文化することが望まれる。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者は職員を採用する時点から理念を共有できる人材がどうかを見極め、本人にも理念に賛同できるかを確認している。理念は職員の目に付きやすい共有スペースに掲示するとともに、日々カンファレンスやミーティング時に理念の実践に向けた話し合いもなされている。		
		<b>2 地域との支えあい</b>			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時から積み重ねてきた地域への働きかけにより、地区の運動会や敬老会、小学校の行事への参加等、地域の方が入居者を同じ住民として受け入れ、交流する機会が多く持たれている。地域の高齢者向けに実施している「よろず茶屋」にも、入居者が参加して交流を深めている。		
		<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
■	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニット2名の職員が中心となり、他の職員にも確認しながら自己評価を行っている。自己評価及び外部評価の結果はカンファレンスで伝えとともに、全職員に配付もして、改善への取り組みに向けて活用している。		
■	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回、地域包括支援センター、地区社協、民生委員等のメンバーが参加して行っている。運営者は、まず地域の方に認知症を理解してもらい、外部との交流の機会を増やすことを念頭に置いて、これまではあえて入居者や家族をメンバーに加えていなかったが、今後は家族会を設立し、代表者に参加してもらいたいと考えている。		運営推進会議は、当事者としての意見を伝えたり、それらを協議に活かす機会でもあるため、入居者や家族の参加が早期に実現することを期待したい。
■	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が市のモデル事業である「よろず茶屋」を上げた経緯もあり、市との関係は良好である。日常的にも運営上の疑問等を電話や直接出向いて行ってやり取りする関係が持たれている。		
		<b>4 理念を実践するための体制</b>			
■	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族向けに「すのうどろっぶ新聞」を毎月発行しており、写真を多く掲載してホームでの様子を伝えている。さらに入居者ごとに毎月の暮らしぶりを担当者が丁寧に記した便りも同封して、きめ細かく報告し、家族の安心につなげている。		
■	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各家族とは年に1回ずつ面談の機会を設けて丁寧に話を聞くようしており、要望等もサービスの向上に反映させている。しかし、家族が一堂に会して意見を交わす機会がないため、家族会の設立も検討している。		今後、家族会の設立を通じて、家族側もホームの運営に積極的に関わってくれるような意識変容につなげる取り組みが期待される。
■	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視しており、入居者が混乱しないように職員はユニットごとに固定し、原則異動も行わない方針である。新人職員はしばらくの間は日勤帯に勤務するようにして、個別のケアを学びながら、徐々に馴染みの関係が築けるようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>5 人材の育成と支援</b>			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の立場や経験に応じて、認知症介護実践者研修等の受講を毎年進めている。業務として研修にも参加しており、報告も全職員を前に行い意識の共有化を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の連絡協議会に参加するほか、研修等で知り合った事業所とその後交流し、情報交換を行っている。そのような交流を通じて、客観的に当ホームの特徴や利点を認識できていることが職員のヒアリングから確認できた。		
		<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> <b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスはいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては、日中入居体験を何度か実施して、ホームに慣れたからの利用を基本としている。しかし、最近は家族の都合等で緊急の入居も増えており、その場合でも、家族の事前見学の実施、さらには関係者からできる限り情報を集めて、入居後の生活にダメージが出ないように努力している。		
		<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の食事作りや畑作業等を通じて、入居者から学ぶことも多く、“介護者と入居者”という画一的な関係でなく、年長者である入居者と自然なつきあいができており、そのことに喜びを感じていることが職員のヒアリングから確認できた。		
		<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> <b>1 一人ひとりの把握</b>			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	仏壇に参る時間やおはぎ作りが好きだったこと等、これまでの暮らしぶりや好みに関する情報を本人や家族、関係者からできる限り集め、生活の全体的な把握に努めている。その中で、本人の得意としていたこと、落ち着くことを必ずホームでの生活の中に取り入れるように工夫している。		
		<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者との会話、家族からの聞き取り、センター方式を活用したアセスメントから意向を把握し、職員がカンファレンスで意見を出し合っ、入居者本位の介護計画を作成している。介護計画は入居者のできることに着目し、達成感を得ることに重点を置いた内容となっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の記録を確認し、3か月ごとに計画の見直しが行なわれている。入居者の状態が変化した場合、変化に応じた計画となるよう随時見直しが行われている		
		<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに併設されている居宅介護支援事業所を通じて、市の紙オムツ支給申請を代行するなど、利点を活かしている。また、運営者が地域の方と一緒に立ち上げた「よるず茶屋」に入居者も参加することにより地域の高齢者とも交流できるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症専門医への受診は、ホームから日頃の状態を文書に記して、家族に同行をお願いしているが、症状に変化がある場合には職員も同行し、連携を取るようにしている。内科については協力医療機関の往診を受け、日頃の健康管理に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応方針が定められており、その都度家族に対して説明がなされている。その際、医療面での体制や対応の限界、また、家族の協力を必ず得て終末期支援に取り組むこと等を説明し、何度も話し合いを行っている。現在、終末期をホームでと望んでいる入居者はいいるが、実際に看取ったケースはまだない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は入居者のいない場所で記入しており、管理もファイル名を背にして目に触れないよう慎重に取り扱っている。訪問調査時にも、他者に気づかれないように排泄介助の誘導を行っており、入居者のプライドや尊厳を傷つけない対応が見られた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の読経や食事の準備、編み物、畑作業等入居者の希望を確認しながら、一人ひとりのペースを大切に柔軟に対応している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は自分たちが畑で育てた野菜を調理して食することを楽しんでおり、訪問調査時にも、収穫した豆の筋を取る入居者の姿が見られた。食事介助が必要な入居者も増えてきているが、職員が必ず1人は一緒に同じ物を味わうようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により、朝、昼、夜と好きな時間帯に、1人または仲の良い入居者同士でも入浴できるように支援している。重度化により入浴に介助が必要な場合でも、職員2名で介助し、安全面に配慮している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとの行事やイベントのほか、日々の生活の中でも、食事の準備の手伝いや花の水やり、牛乳パックのリサイクルやゴミ出し等の役割を担ってもらっている。入居者の生活歴や職歴を考慮し、これまでの生活で得意としていたことをホームでの生活にも取り入れるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、買い物や公園、神社への散歩等で日常的に外出している。また、その際、地域との交流という意味で近所の方と挨拶を交わすようにしている。興奮状態の入居者にも気分転換に戸外へ誘うなどの対応が臨機応変になされている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の行動制限はしないという方針のもと、日中は施錠せずに職員の気配りに対応している。ホームから出て行ってしまおうそのある入居者には、全職員がその方の所在を常に気にするようにしており、行動を制止せず、気持ちを察するように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練が年2回、消防署の指導のもと、入居者と全職員が参加して実施されている。夜間時も想定して、職員のホームまでの到着時間を把握しているが、職員だけの避難誘導や救助には時間もかかるため、今後は近隣にも協力を求めていきたいと考えている。		入居者を安全に避難・救助するためには、職員だけでは困難な面もあり、次回訓練時には、近所の方にも参加を呼びかけるなどの取り組みが望まれる。また、入居者がいる事業所であるため、災害に備えた食料や飲料水の備蓄も求められる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のカロリーや栄養バランスを考慮したメニューが立てられており、水分量や摂取量も把握し、適切に記録されている。周囲の状況によって、食事量の低下がみられる時には、個別に落ち着いて食事できる場所で介助するなど柔軟な対応がなされている。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いすの入居者も多いため、ホーム内はバリアフリーで段差等も一切ない。ホームの至る所に入居者の作品や季節を感じさせる掲示物等が飾られており、家庭的な温かみと機能性を併せ持つ居心地の良い空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際しては、落ち着いて過ごせるように馴染みの物を持参してもらっている。居室は洋室で、一部畳コーナーがあり、家族が訪れた時にもゆったりと過ごせるようになっている。使い慣れた家具や、家族の写真等が思い思いに飾られており、それぞれの個性がみられる居室となっている。		

すのうどろっぷ(Aユニット)

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>理念に基づく運営</b> <b>1 理念の共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者との関わりを重視した理念を掲げており、グループホームの運営上も生かされている。		運動会や敬老会、デイホーム等、地域行事へは積極的に参加しているが、理念上では明文化していない。今後検討したい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共有スペースに理念を掲示し、職員が常に理念を意識できるようにすると共に、カンファレンスやミーティング等でも理念の実践について話し合われている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議を定期的に行い、理念を理解してもらうことに努めている。		
	<b>2 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	通勤途中や散歩中に近所の方と会ったときは、挨拶を交わしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	普段の散歩や買物などを通じて近所に顔なじみができており、また、老人会や地区の行事に受け入れてくれたりと、ホームの行事を通じた交流がある。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々と協力してよさ茶屋をオープンし、地域の高齢者の暮らしに役立てられるよう取り組んでいる。		
	<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	カンファレンス等で自己評価について話し合っており、外部評価と共に課題の改善に取り組むなど活用している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地区の代表や地域包括支援センター等の方々に参加し、意見交換の中でグループホームや認知症の理解を図ると共に、デイホームへの参加やよさ茶屋事業の展開など、地域に働きかける取り組みの提案と検討が行われている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の受け入れや、地域包括支援センターとも地区のデイホームを通じた交流があり、連携がとられている。また、市がモデル事業として設置を進めているよろず茶屋事業も立ち上げ、地域の高齢者を対象とした生きがい、健康づくりの支援に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	カンファレンス等で地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。また、必要な人には活用の支援を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で学び、話し合う機会を持ち、虐待となる言動がないかを職員同士で常に意識している。		
<b>4 理念を实践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は家族と十分に話し合っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情や言動等を普段からよく観察し、何か訴えたいことがあるような場合は、職員とゆっくりと話せる機会や場を設けるようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の日々の暮らしの様子を文書で毎月のホームの便りと共に家族へ送付している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置もしているが、面会時等に直接話を聞くなどして積極的にコミュニケーションを図っている。また、個別の家族会を設け、意見を求める取り組みも行っている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで反映されている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入浴時間帯や外出等には必要な人員が確保されており、その都度話し合っている柔軟な対応がとられている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への影響に配慮し、ユニットごとに職員がほぼ固定されている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上に努めており、実務者研修の受講率も高い。また、研修参加の報告はカンファレンスで実施され共有化されている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者の協議会に加入し積極的に情報交換を図っている。また、他のグループホームとの職員間の相互交流もされており、サービスの質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	必要時は個々に悩みを聞く等してストレスの軽減に努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の能力に応じた役割を設けて能力を発揮する機会を設け、各自の向上心につなげている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに本人と面談し、直接話す機会を設けている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでに面談や電話等で何度か家族と話し合う機会を設け、思いを受けとめている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、グループホームにおける生活形態を説明し、家族との思いにズレがないか相互に確認している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族・本人と相談しながら、事前に体験的にホームに通ってもらう等、サービス開始前に徐々に馴染めるための配慮をしている。		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や調理等の家事全般を通して、入居者にできることはしてもらい、職員は共に支えあう関係づくりに努めている。		



項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族が食事介助できるよう支援したりすることで、家族と共に利用者を支えていけるような関係づくりに努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式での情報や本人からの話、また家族からは面会時に昔の暮らしぶり等を聞いたりして、各家族の関係を理解している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所については本人や家族から事前に情報を聞き、面会や外出の支援を行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握して席の配置等を考慮し、入浴の順番などにも配慮している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先や転居先の担当者と継続的に情報交換を行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		<b>1 一人ひとりの把握</b>		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に一人ひとりの入居者と向き合う取り組みを行っており、できるだけ入居者の思いや希望を把握するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式や日々の会話の中から、本人や家族からの情報をもとにこれまでの暮らしの把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家事や畑、園芸など、日々の暮らしの中から一人ひとりの能力や意欲を見極め把握に努めている。		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別の家族会で家族の意向を把握し、入居者との日常の会話を含めてカンファレンスで意見を出し合い、入居者本位のケアプランを作成している。入居者のできることを増やし、達成感を持ってもらうことに視点を置いている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活の状態変化や生活記録等の経過記録に基づき、変化に応じた見直しが行われている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の生活記録ファイルに日々の様子を記録し、実践やケアプランに生かされている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイや認知症対応型デイサービスの指定を受けているが、入居が主で実際の利用はない。居宅介護支援事業所が介護認定やおむつの申請の手続きを行っている。		ホームから地域へ出かけて行く機会は増えたが、これからはホームに気軽に来てもらえるような機会も作っていきたい。
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	よらず茶屋の利用、消防による避難訓練の実施、大正琴やフラダンスのボランティアの受け入れなどを定期的に行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じて他の事業所や病院の担当者等と今後の対応について話し合っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて随時行くと共に、地域包括支援センターの方を定期的に運営推進会議に招いて情報交換を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の往診が2週間に1回あり、他の医療機関の受診も柔軟に対応している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	特に対応が困難な入居者については専門医に相談し、本人の受診も支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ユニットごとに看護師が配置されており、看護面での支援体制と介護職員への指導体制が確立している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院、退院時は嘱託医を通じて紹介状や診療情報等の情報を交換し、スムーズな手続きができるよう支援している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りに関する指針を定めており、家族には契約の段階で説明し、状態の悪化時には、今後の方針について、づれがないように何度も話している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>状態が重度化することにケアの内容を見直し、必要時は嘱託医や専門医に報告・相談している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の状態に合わせて転居場所を検討し、転居先での担当者とも十分な情報交換を行っている。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		<p><b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b></p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日常の業務の中で責任者がプライバシーに配慮した声かけ、対応がされているか点検し、カンファレンスでも話し合われている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>一人ひとり思いや能力を遮ることがないように、生活の主体は利用者であることを常に意識している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>畑、買物、散歩等の外出や入浴など、希望があればその都度柔軟に対応している。</p>		
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>近所の美容室を利用したり、今までの馴染みの店を利用したり、通うのが不便であれば、移動美容室を利用している。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員は入居者と一緒にテーブルを囲み、準備や後片付けも入居者の負担にならない範囲で一緒に行っている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の嗜好を把握し、好みに応じて支援している。(以前は喫煙の方がおられたが、現在はいらっしやらない)</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	不必要なおムツ使用がないよう、一人ひとりの能力や排泄パターンの把握に努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制を取っており、入居者の希望や状態に応じて柔軟に対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠の状態や、日中の活動による疲労の状態を表情などから判断し、休息を促している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとのイベントや行事のほか、入居者の希望や思いを把握し個別に散歩・買物・畑作り等を支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じてお金の所持を支援しており、買物の援助も行っている。		お金を非常にたくさん所持したがる方に対して、ご本人と話し合い、納得のいく金額を決め、使い方も検討したい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に応じ、買物・散歩・畑等、その都度支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	観光地や観劇などへ出掛ける機会を支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御自分でかけられる方は自分で、かけられない方は職員が援助している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客への挨拶やお茶出しを習慣化し、気軽に立ち寄れる雰囲気工夫している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃からカンファレンス等で身体拘束について話し合われている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしていない。入居者が外出しそうな様子を見せると、自然な形で声かけをしたり等、安全面に配慮した工夫や対応をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士が声を掛け合い、入居者それぞれの所在を確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険度や入居者の状態に応じて保管・管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	気づいた点はその都度記録し全スタッフに注意を呼びかける等、事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が消防署による救命救急の講習を受けている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃から散歩等で近所の方と顔見知りになるよう努め、定期的に消防署の指導のもとで避難訓練を実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会において説明し、家族の思いを聞いた上で対応策を話し合っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、異変がある場合は看護師に報告して指示を仰ぐと共に、全職員に申し送っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフルームに各入居者が服用中の薬の一覧表を貼りだしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常的に散歩や買物等で歩いて体を動かす機会を作り、毎日リハビリ体操も行っている。また、牛乳を毎日飲んでもらうようにしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きの声かけや介助を行っている。入歯使用の方には週に1度、ポリドント消毒を行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、キザミ食やミキサー食の対応をとり、健康チェック表にて毎食の摂取量や水分量をチェックしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年入居者と職員全員がインフルエンザの予防接種を受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器を使用後は食器洗い乾燥機にかけ、高温消毒を行っている。また、流し場のハイター消毒と、使用した食材の検食保存も行っている。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇やベンチ等を設置し、親しみやすく家庭的な雰囲気を工夫している。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に季節感を感じ取れる掲示物や写真を飾ったり、仏壇を置いたりして生活感を出す工夫をしている。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファやベンチを設置し、自由に思い思いの時間を過ごせるように工夫している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やタンス等、本人の馴染みのものが持ち込まれており、一人ひとりの個性が表れた居室となっている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールや居室の窓は気候に合わせて開放するようしており、利用者の状態に合わせて空調も調節している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとなっており、要所要所に手すりも設置している。また、車椅子の入居者でもゆったりと自分の力で排泄ができるよう、トイレも広くとっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは大きめに表示してあり、居室の位置が分からない入居者のために、写真や掲示物で目印を作っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯干し場や畑、花壇があり、自由に活用できる。また、玄関先のベンチは、外気浴や入居者同士の交流を楽しむ場となっている。		
項目番号	項目	<b>取り組みの成果</b> (該当する箇所を 印で囲むこと)		
<b>サービスの成果に関する項目</b>				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・毎日、入居者一人ひとりの様子を個別のファイルに記録することで、その日の様子や新たに気付いた点、注意すべき点などを職員全員が日々確認することができる。またそれに加え、日々の記録をまとめた「暮らしの様子」を各担当者がまとめ毎月家族に送付しており、家族も入居者の日々の暮らしぶりを知ることによって安心したり、ホームへの要望につなげることができている。

・充実した職員体制にあるため、その日の入居者の要望に応じて外出支援も柔軟に行っており、重度化した入居者への個別の支援やゆったりと寄り添える時間も確保できている。

・地域とのつながりを大事にしており、日々の散歩や買物の他、運動会や敬老会、デイホームへの参加を積極的にいき地区の方からも温かい支援や声かけを頂いている。また、よろず茶屋がオープンしたことで、地区のお年寄りとの交流の拠点となるのが今後期待できる。今年、自治会の社会奉仕にも参加し、集会所や公園の草むしりを行った。その後、近所の方より感謝の言葉を頂き、毎日の少しずつの関わりが大切だとしみじみ感じた。



自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>理念に基づく運営</b> <b>1 理念の共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者との関わりを重視した理念を掲げており、グループホームの運営上も生かされている。		運動会や敬老会、デイホーム等地域の行事へは積極的に参加しているが、理念上では明文化していない。今後検討したい。
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、職員が常に理念を意識できるようにすると共に、カンファレンスやミーティング等でも理念の実践について話し合われている。		
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議を定期的開催し、理念を理解してもらうことに努めている。		
	<b>2 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中に近所の方と会った時は、積極的に挨拶を交わしている。		
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの店を利用して買い物を行い、店員さん等と顔馴染みになっている。散歩や老人会、行事等に参加して地域の方達との交流に勤めている		
6	事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	よるず茶屋を地域の方達と立ち上げ、当ホーム入居の方も参加して地域の高齢者の方達との交流を図っている		
	<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	カンファレンス等で自己評価について話し合っており、外部評価と共に課題の改善に取り組むなど活用している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地区の代表や地域包括支援センター等の方々が参加し、意見交換の中でグループホームや認知症の理解を図ると共に、デイホームへの参加やよるず茶屋事業の展開など、地域に働きかける取り組みの提案と検討が行われている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の受け入れや、地域包括支援センターとも地区のデイホームを通じた交流があり、連携がとられている。また、市がモデル事業として設置を進めているよろず茶屋事業にも参加し、地域の高齢者を対象とした生きがい、健康づくりの支援に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	カンファレンス等で地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。また、必要な人には活用の支援を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で学び、話し合う機会を持ち、虐待となる言動がないかを職員同士で常に意識している。		
<b>4 理念を实践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は家族と十分に話し合っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情や言動等を普段からよく観察し、何か訴えたことがあるような場合は、職員とゆっくりと話せる機会や場を設けるようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の日々の暮らしの様子を文書で毎月のホームの便りと共に家族へ送付している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置もしているが、面会時等に直接話を聞くなどして積極的にコミュニケーションを図っている。また、個別の家族会を設け、意見を求める取り組みも行っている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで反映されている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入浴時間帯や外出等には必要な人員が確保されており、その都度話し合って柔軟な対応がとられている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への影響に配慮し、ユニットごとに職員がほぼ固定されている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上に努めており、実務者研修の受講率も高い。また、研修参加の報告はカンファレンスで実施され共有化されている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者の協議会に加入し積極的に情報交換を図っている。また、他のグループホームとの職員間の相互交流もされており、サービスの質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	必要時は個々に悩みを聞く等してストレスの軽減に努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の能力に応じた役割を設けて能力を発揮する機会を設け、各自の向上心につなげている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに本人と面談し、直接話す機会を設けている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでに面談や電話等で何度か家族と話し合う機会を設け、思いを受けとめている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、グループホームにおける生活形態を説明し、家族との思いにズレがないか相互に確認している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		○	以前は入居前に、日中ホームに来て頂き体験して頂いていたが、御家族の意向で即入居となる方や他ホームからそのまま移られる方等で、実現されない場合が増えてきた。できるだけ、徐々に馴染んでいただけるよう工夫したい。
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や調理等の家事全般を通して、入居者にできることはしてもらい、職員は共に支えあう関係づくりに努めている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族が食事介助できるよう支援したりすることで、家族と共に利用者を支えていけるような関係づくりに努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式での情報や本人からの話、また家族からは面会時に昔の暮らしぶり等を聞いたりして、各家族の関係を理解している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所については本人や家族から事前に情報を聞き、面会や外出の支援を行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握して席の配置等を考慮し、入浴の順番などにも配慮している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先や転居先の担当者と継続的に情報交換を行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		<b>1 一人ひとりの把握</b>		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に一人ひとりの入居者と向き合う取り組みを行っており、できるだけ入居者の思いや希望を把握するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式や日々の会話の中から、本人や家族からの情報をもとにこれまでの暮らしの把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家事や畑、園芸など、日々の暮らしの中から一人ひとりの能力や意欲を見極め把握に努めている。		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別の家族会で家族の意向を把握し、入居者との日常の会話を含めてカンファレンスで意見を出し合い、入居者本位のケアプランを作成している。入居者のできることを増やし、達成感を持ってもらうことに視点を置いている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活の状態変化や生活記録等の経過記録に基づき、変化に応じた見直しが行われている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の生活記録ファイルに日々の様子を記録し、実践やケアプランに生かされている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイや認知症対応型デイサービスの指定を受けているが、入居が主で実際の利用はない。居宅介護支援事業所が認定の申請やおむつの助成の手続きを行っている。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	よらず茶屋の利用、消防による避難訓練の実施、大正琴やフラダンスのボランティアの受け入れなどを定期的に行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性に応じて他の事業所や病院の担当者等と今後の対応について話し合っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて随時行くと共に、地域包括支援センターの方を定期的に運営推進会議に招いて情報交換を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の往診が2週間に1回あり、他の医療機関の受診も柔軟に対応している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	特に対応が困難な入居者については専門医に相談し、本人の受診も支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ユニットごとに看護師が配置されており、看護面での支援体制と介護職員への指導体制が確立している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院、退院時は嘱託医を通じて紹介状や診療情報等の情報を交換し、スムーズな手続きができるよう支援している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りに関する指針を定めており、家族には契約の段階で説明し同意を得ている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>状態が重度化することにケアの内容を見直し、必要時は嘱託医や専門医に報告・相談している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の状態に合わせて転居場所を検討し、転居先での担当者とも十分な情報交換を行っている。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		<p><b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b></p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日常の業務の中で責任者がプライバシーに配慮した声かけ、対応がされているか点検し、カンファレンスでも話し合われている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>一人ひとり思いや能力を遮ることがないよう、生活の主体は利用者であることを常に意識している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>畑、買物、散歩等の外出や入浴など、希望があればその都度柔軟に対応している。</p>		
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の望む店での支援をしている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員は入居者と一緒にテーブルを囲み、準備や後片付けも入居者の負担にならない範囲で一緒に行っている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の嗜好を把握し、好みに応じて支援している。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	不必要なオムツ使用がないよう、一人ひとりの能力や排泄パターンの把握に努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制を取っており、入居者の希望や状態に応じて柔軟に対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠の状態や、日中の活動による疲労の状態を表情などから判断し、休息を促している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとのイベントや行事のほか、入居者の希望や思いを把握し個別に散歩・買物・畑作り等を支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		○	支払いをして頂こうとさいふを持って頂いたり、どちらにしようかと値段を提示したりしてみるのが買物が成立しない。現在の買物は四季のものに触れていただく事が優先されている。もう少し工夫したい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に応じ、買物・散歩・畑等、その都度支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	観光地や観劇などへ出掛ける機会を支援している。	○	日帰り旅行や一泊旅行なども取り入れたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、随時行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客への挨拶やお茶出しを習慣化し、気軽に立ち寄れる雰囲気工夫している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃からカンファレンス等で身体拘束について話し合われている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしていない。入居者が外出しそうな様子を見せると、自然な形で声かけをしたり等、安全面に配慮した工夫や対応をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士が声を掛け合い、入居者それぞれの所在を確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険度や入居者の状態に応じて保管・管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	気づいた点はその都度記録し全スタッフに注意を呼びかける等、事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が消防署による救命救急の講習を受けている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃から散歩等で近所の方と顔見知りになるよう努め、定期的に消防署の指導のもとで避難訓練を実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会において説明し、家族の思いを聞いた上で対応策を話し合っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、異変がある場合は看護師に報告して指示を仰ぐと共に、全職員に申し送っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフルームに各入居者が服用中の薬の一覧表を貼りだしている。		



項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常的に散歩や買物等で歩いて体を動かす機会を作り、毎日リハビリ体操も行っている。また、牛乳やヨーグルトを毎日飲んだり食べて頂く様にしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きの声かけや能力に応じた介助を行っている。入歯使用の方には週に1度、ポリデント消毒を行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、キザミ食やミキサー食の対応をとり、健康チェック表にて毎食の摂取量や水分量をチェックしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年入居者と職員全員がインフルエンザの予防接種を受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器を使用後は食器洗い乾燥機にかけ、高温消毒を行っている。また、流し場のハイター消毒と、使用した食材の検食保存も行っている。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇やベンチ等を設置し、親しみやすく家庭的な雰囲気をつ工夫している。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に季節感を感じ取れる掲示物や写真を飾ったり、仏壇を置いたりして生活感を出す工夫をしている。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファやベンチを設置し、自由に思い思いの時間を過ごせるように工夫している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やタンス等、本人の馴染みのものが持ち込まれており、一人ひとりの個性が表れた居室となっている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールや居室の窓は気候に合わせて開放するようしており、利用者の状態に合わせて空調も調節している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとなっており、要所要所に手すりも設置している。また、車椅子の入居者でもゆったりと自分の力で排泄ができるよう、トイレも広くとっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは大きめに表示してあり、居室の位置が分からない入居者のために、写真や掲示物で目印を作っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯干し場や畑、花壇があり、自由に活用できる。また、玄関先のベンチは、外気浴や入居者同士の交流を楽しむ場となっている。		
項目番号	項目	<b>取り組みの成果</b> (該当する箇所を 印で囲むこと)		
<b>サービスの成果に関する項目</b>				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の利用者の2/3くらいの利用者の1/3くらいのはほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある ○ 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎日、入居者一人ひとりの様子を個別のファイルに記録することで、その日の様子や新たに気付いた点、注意すべき点などを職員全員が日々確認することができる。またそれに加え、日々の記録をまとめた「暮らしの様子」を各担当者がまとめ毎月家族に送付しており、家族も入居者の日々の暮らしぶりを知ることによって安心したり、ホームへの要望につなげることができている。
- ・充実した職員体制にあるため、その日の入居者の要望に応じて外出支援も柔軟に行っており、重度化した入居者への個別の支援やゆったりと寄り添える時間も確保できている。
- ・地域とのつながりを大事にしており、日々の散歩や買物の他、運動会や敬老会、デイホームへの参加を積極的に行い地区の方からも温かい支援や声かけを頂いている。また、よろず茶屋がオープンしたことで、地区のお年寄りとの交流の拠点となるのが今後期待できる。